

令和6年度 青少年ピースフォーラム報告書



1 概要

「青少年ピースフォーラム」は、全国の自治体が「平和使節団」として派遣する青少年の皆さんと長崎の青少年とが、一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的としています。平成5年度に長崎市が開始し、令和元年度より公益財団法人 長崎平和推進協会が長崎市から委託を受けて実施しています。フォーラムの主な企画及び当日の進行は、長崎市の青少年ピースボランティアが担っています。

2 参加自治体・参加者数

37 自治体：参加者 375 名 + 引率者等 124 名（合計 499 名）+ ポルト市 2 名

北海道札幌市（6名）	北海道函館市（4名）	北海道旭川市（2名）
宮城県気仙沼市（3名）	宮城県美里町（12名）	福島県会津若松市（13名）
福島県郡山市（28名）	福島県いわき市（29名）	茨城県龍ケ崎市（12名）
茨城県つくば市（6名）	千葉県松戸市（22名）	千葉県成田市（11名）
千葉県佐倉市（24名）	千葉県鎌ケ谷市（5名）	千葉県浦安市（18名）
東京都千代田区（7名）	東京都港区（14名）	東京都新宿区（7名）
東京都台東区（7名）	東京都品川区（6名）	東京都調布市（11名）
神奈川県藤沢市（21名）	長野県中野市（3名）	岐阜県美濃加茂市（8名）
岐阜県飛騨市（8名）	岐阜県川辺町（5名）	愛知県岩倉市（14名）
京都府福知山市（5名）	京都府宇治田原町（4名）	福岡県北九州市（19名）
大分県豊後大野市（7名）	宮崎県日向市（7名）	沖縄県那覇市（8名）
沖縄県石垣市（2名）	沖縄県北谷町（9名）	沖縄県北中城村（4名）
沖縄県中城村（4名）	ポルトガル共和国ポルト市（2名）	※（ ）内は参加者数

長崎市青少年ピースボランティア 91 名（8日 86 名・9日 87 名）

●東京都板橋区（22 名）は飛行機欠航のため参加中止

●ポルト市は、長崎市の姉妹都市招聘事業での参加（開会行事・意見交換のみ）

参加者内訳	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	合計
自治体からの参加者	33	302	35	4	1	375
青少年ピースボランティア			63	21	7	91
合計	33	302	98	25	8	466

3 プログラム

令和6年度は両日ともに晴天に恵まれましたが、1日目（8日）の平和学習（コース別学習）の途中で、緊急地震速報が発令されました。屋外で活動中だった参加者は多少戸惑ったようですが、無事に予定を終了することができました。

時 間		内 容
1 日目 8 月 8 日 (木)	14 : 00 ～15 : 15	開会行事 （37 自治体・375 名） 長崎市長挨拶 開会宣言 被爆体験講話（松尾 幸子 氏） 【平和会館ホール】
	15 : 30 ～17 : 30	平和学習「被爆の実相を伝える」 A コース（20 自治体・217 名参加） ①室内学習（被爆の実相・戦時下を疑似体験） ②こちんまりフィールドワーク ③共通学習（核兵器の現状を知ろう） 【平和会館ホール・原爆資料館周辺】 B コース（17 自治体・158 名） ①室内学習（被爆の実相） ②コース別フィールドワーク 平和公園コース（9 自治体・80 名） 浦上天主堂コース（7 自治体・67 名） 山王神社コース（1 自治体・11 名） 【原爆資料館周辺】
	終了後 (希望者)	17:45～18:15 平和の灯 キャンドル絵付け体験 (6 団体・61 名) 【平和会館ホール】 18:00～19:30 交流会 （20 団体・241 名） 【長崎新聞アストピアホール】
2 日目 8 月 9 日 (金)	午前中	長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列 平和公園（30 自治体・200 名） / 出島メッセ長崎 長崎市内中学校の平和集会への参加 （2 自治体・33 名）
	14:00 ～16:00	意見交換 （31 自治体・304 名） グループごとのアイスブレイク・意見交換・発表 「M y 平和宣言」 閉会行事（修了証書授与など） 【出島メッセ長崎】



8月8日（木）青少年ピースフォーラム 1日目

開会行事：長崎市長挨拶

開会宣言

被爆体験講話（松尾 幸子 氏）

（進行：青少年ピースボランティア）



松尾 幸子（当時 11 歳 国民学校 5 年生）

爆心地から 1.3 km で被爆。私は無傷だったが、家族は怪我や火傷を負う。0.7 km 地点にあった自宅は跡形もなく焼け、姉の骨だけが出てきた。倒壊した建物の下敷きとなった父は 8 月 28 日に死亡。兄 2 人・姉・兄嫁・叔母 2 人も亡くした。



被爆体験講話

参加者の声：被爆体験講話を聴いて

- ・今では考えられないことが起こっていてビックリしました。でも今ウクライナとロシアが戦争していて、原爆が落とされてもおかしくない状況というのをめちゃくちゃ感じました。
- ・被爆者の言葉の力が強い。戦争を二度としない。核を廃絶するべきだ。誰が言うよりも説得力がある。丁寧に声を伝承していきたい。
- ・被爆された方々の状況をより鮮明に知ることができ、恐怖心や悲しみに押しつぶされそうな感覚だったんだろうなと感じた。自分の大切な人が生きていることや、帰る場所があるということがとても貴重だとわかったので一日、一日を過ごせることに感謝し、悔いのないよう頑張りたいと感じた。
- ・講話を聞いて、前よりも戦争の恐ろしさを知れてとても恐かったです。松尾さんの話を聞いて、この恐さをもっとたくさんの人に伝えていきたいと思いました。「大切な友人や家族が亡くなり、なぜ自分が生きているんだろうか」という言葉が心にきました。
- ・原爆があってから、1週間だけとかではなく、何十年も大変な思いなどをしていたんだな、と感じた。被爆者の方々が、その後の人生をどう生き抜いたか、その方たちの強さや、希望を感じた。

平和学習「被爆の実相を伝える」コースに分かれての学習

A コース

室内学習と、こちんまりフィールドワークを行いました。

室内学習では、戦時中の暮らしや長崎原爆についての説明のほか、「戦時下を疑似体験」プログラムを実施しました。

今年度は、こちんまりフィールドワークのコースを一部変更し、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、原爆落下中心地、浦上天主堂遺壁・下の川・追悼 長崎原爆朝鮮人犠牲者の碑

【こちんまりフィールドワーク】 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館・原爆落下中心地・浦上天主堂遺壁・下の川・追悼 長崎原爆朝鮮人犠牲者の碑



【戦時下の疑似体験】

照明や音、写真を組み合わせ、空襲など戦時下の状況を疑似体験する

「大切なもの」が次々と奪われる、戦争の怖さを想像する



B

コース

平和公園コース・浦上天主堂コース・山王神社コースの3つのコースに分かれて、原爆落下中心地碑や被爆建造物等、慰霊碑などを見学するフィールドワークを実施しました。

また今年度は、出発前に被爆の実相についての学習を行うこととしました。



●平和公園コース

爆心地公園：原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川

平和公園：平和の泉、長崎刑務所浦上刑務支所、平和祈念像、平和のモニュメント

●浦上天主堂コース

浦上天主堂：浦上天主堂、鐘楼ドーム

爆心地公園：原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川

●山王神社コース

長崎大学医学部：ゲストハウス、原爆犠牲者名碑、角尾学長の像、旧正門門柱

山王神社：坂本町民原子爆弾殉難者之碑、一本柱鳥居、被爆クスノキ



参加者の声：平和学習に参加して



A コース

【こじんまりフィールドワーク】

- ・原爆で亡くなった方々の遺影と名前を見て、全ての人に想いのこもった名前があったのと、まだ小学生くらいの小さな子の遺影を見て、これからの一人一人の人生がまだ続くはずだったのに罪のない彼ら、彼女らから全てを無差別に奪っていった原爆は決して忘れてはならない記憶であり、二度と使ってはならない兵器だということを改めて実感することができて良かったです。
- ・同じくらいの人たちから平和について学ぶのは刺激があったし、日本中に平和について興味のある人がいると知れて良かった。
- ・被爆した教会を見て真っ黒に汚れていたり、とても大きな教会だったが、一部分しか残っていなかったりするのを見て、原爆の恐ろしさがわかった。原爆によってなくなったが、原爆死没者名簿に一族が全員亡くなってしまったので、書かれていない人がいるから白紙の一冊があると言う話が印象に残り、原爆はそこに生きていた人々の生活を跡形もなく消し去ってしまう恐ろしい兵器だと感じた。

【戦時下の疑似体験】

- ・カードに書いた大切な物などが無くなっていき、より戦争の悲惨さが分かった。
- ・原爆の疑似体験をしたり、大切なもののカードを使って自分の大切なものが失われていく体験が出来たことがとても良かったです！
- ・戦争の疑似体験では、大切なものや人や場所が全てなくなってしまうと思うと苦しかったし空襲におびえて生きなきゃと思うと恐怖でしかないと思いました。
- ・今、使える核兵器の数を BB 弾で例えていたり、疑似体験は数字だけでは分からない恐怖を知ることができました。

B コース

- ・浦上天主堂コースだったのですが、ところどころ当時の被爆した石像などが置いてあり、とくに鐘楼ドームは原爆の威力を物語っており、とても怖いと感じました。
- ・見るべきポイント、そこから推測されていることを、分かりやすく解説していただきました。講話を聞いた直後だからこそ感じる存在感があったように思います。過去が過去として残されておらず、今なお私たちが感じ取れる生々しさがありませんでした。
- ・講話を聞いた後で実際にその場所に足を運ぶと、より解説の内容が頭に入ってきた。講話の裏付けをされた感じがして、1つのストーリーになったようで分かりやすかった。
- ・実際に自分の目で見ることによって、写真ではわからない表面の凸凹や少しのずれをじっくり、色々な角度から見ることができた。その場所一つ一つでくわしい説明を聞いたので、より深く考えながら見学できてよかった。
- ・生でしか味わえない感覚でした。フィールドワークで見たものは全て原爆の史料であると同時に、人々の復興をずっと見守り続けてきた生活の一部であることを再認識させられました。

8月9日（金）青少年ピースフォーラム 2日目

午前：長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列
平和公園・出島メッセ長崎
長崎市内中学校の平和学習の参加
長崎市立桜馬場中学校・長崎市立茂木中学校
午後：意見交換（意見交換・My 平和宣言）
閉会行事（修了証書授与など）
（企画進行：青少年ピースボランティア）



青少年ピースボランティアも
式典をお手伝い

意見交換

2日目の午後は、意見交換を行いました。自治体等の枠を越えた10名程度のグループに分かれ、青少年ピースボランティアとともに話し合います。意見交換をととして色々な考えを知り、自分たちにできることを考えていきます。



●意見交換

全国各地からの参加者が集まったグループなので、まずはアイスブレイクで簡単に自己紹介を行い、緊張をほぐします。

その後、テーマに沿って意見を出し合います。考えた意見を付箋紙に書き、模造紙に貼っていきます。その意見をグルーピングしてまとめることで、考えを深めていきます。

最後に4グループが代表して、話し合った内容を発表しました。





意見交換のテーマ

- ①「ケンカ・戦争」の原因は何だろう？
- ②「ケンカ・戦争」をなくすには、どうしたらいいかな？
(小中学生グループはケンカ・中高生グループは戦争について)



My 平和宣言

意見交換後には、戦争や争いのない平和な世界をつくるために「今の私にできること」「将来の私になら出来るかもしれないこと」を考え、その内容を「My 平和宣言」として色紙に記しました。

最後には全員の平和宣言をコルクボードに飾り付け、記念撮影を行いました。



2日間 お疲れさまでした！

参加者の声：意見交換に参加して



- ・おたがいに興味を持ち、無理のない範囲で理解し合うことが重要だということ。
- ・同じような考えの人が多くと思っていたが、具体的だったり抽象的だったり、考える方向が違ったりでとても面白かった。
また、日本中の同年代の人たちと文化祭のようにみんなで作り上げていくのがとても楽しく、団結力も上がり感慨深いものがあった。
- ・他人の意見をしっかり聞くのが大事だし、出た意見を類似しているものでまとめたりすることも時には大事なんだと学びました。また、自分とは違う視点から見た考え方や根拠もあったところから人それぞれの考えがあるんだと学びました。
- ・考え方の違う様々な人たちとの交流を通して自分にはなかった発想を思いつく人もいたので1人で考えるよりも多くの人と考えたほうが色々なことに気がついたりしてたくさんの利点があると言うことを学びました。
- ・普段生活していると交わることのない他県の人たちや高校生・大学生の人たちと、テーマに沿った話し合いの他にも、お互いの学校生活のことなど、たくさんお話することが出来て貴重な経験でした。
- ・「小さなことから良い」ということです。
平和という大きなくくりで、いきなり戦争に飛ぶのではなく、喧嘩などの小さなことから原因や解決方法を見つけていくことで、考えを深めやすくなりました。平和な未来へ沢山貢献していきたいけれど、まずは自分のできる範囲のことを精一杯やっていこうと思うようになりました。
- ・相手を尊重する。自分の考えを押し通そうとしないことを学びました。たしかにこのようなことから、戦争やケンカが起これると思いました。
- ・「戦争」という国と国の大きな規模の中で、私ができることってあるの？と思っていたけれど、「国際交流で外国人の人と仲良くなれば、その国との戦争はいやだと思えるから、まずは色々な国の人と話すこと」など、私にもできそうなことが多く見つかりました。誰かと話すとこんなにも見方が変えられるんだ！と思いました。学校や友達と平和についてまた話しあいたいです。

引率者の声：フォーラムに参加して



- ・たくさんのピースボランティアの方に、とても丁寧に誘導や案内をしていただき、実りの多い一日となりました。これほど多くの若い世代の方が、平和へ関心を持ち、ボランティアとして活躍していることが凄いと感じました。
- ・同じ自治体の参加者同士が同グループにならないよう編成されていたため、全員が初対面という状況下で長時間ディスカッションを行うことに不安を感じている様子の子もいたが、最後には多様な意見を聞くことができて面白かったと語り、友達も新たにつくっていた。

4 アンケート集計結果

1：このフォーラムに参加して、被爆の実相や平和の尊さを学ぶことができましたか？

よくできた … 85% できた … 13% 少しできた … 0%
あまりできなかった … 0% 無回答 … 2%

2：2日目の意見交換では、自分の意見を発表できましたか？

よくできた … 57% できた … 36% 少しできた … 4%
あまりできなかった … 0.75% 2日目は不参加 … 0.75% 無回答 … 1.5%

3：他の自治体の参加者と仲良くなることができましたか？

よくできた … 72% できた … 20.8% 少しできた … 4%
あまりできなかった … 2.4% 無回答 … 0.8%

1日目終了後 - 平和の灯キャンドル絵付け体験 / 交流会

●平和の灯 キャンドル絵付け体験

約 60 人が参加し、思い思いのメッセージやイラストを描きました。

キャンドルは、9月28日（土）に爆心地公園で開催された「平和の灯」で灯されました。



●交流会

約 240 名が参加し、食事をしながら交流を深めました。

青少年ピースボランティアは、ダンスやクイズ大会で、盛り上げました。



Nagasaki Peace Forum 2024



(公財)長崎平和推進協会

YouTube



Instagram



長崎市

長崎市の平和・原爆

Facebook



令和 6 年度

青少年ピースフォーラム 報告書

発行 (公財) 長崎平和推進協会

住所 〒852-8117

長崎市平野町 7 番 8 号

TEL 095-844-9922

FAX 095-844-9961

Mail keishou@peace-wing-n.or.jp